

アクシネット ジャパン インク

帳票ツール「Create!Form」の導入により 請求書発行～封入・封緘・FAX送信を大幅に効率化

電子帳票システム「Pandora-AX」、FAXサーバー「まいと〜くFAX9 Pro」と連携

POINT

- 請求書発行業務を手作業で行っていたため、作業時間の超過が問題に
- 帳票ツール「Create!Form」を起点に、ツール連携による自動化の仕組みを構築
- 作業時間の短縮に加え、請求書の誤封入や誤送信を防止する効果も期待

COMPANY PROFILE

本 社：東京都港区

設 立：1983年

資 本 金：米アクシネットカンパニーの
100%子会社

従業員数：158名

事業内容：米アクシネット カンパニーのゴルフ用品の輸入、製造、販売。「タイトリスト」ブランドのボール、クラブ、アパレルなど、「フットジョイ」ブランドのシューズ、グローブ、アパレルなどを扱う。

<http://www.jcm-hq.co.jp/>



製 造



流 通 ・ 販 売



横尾 広昭氏

インフォメーションシステム部
課長

月に4回、請求書をハック 作業時間の超過が問題に

「タイトリスト」「スコッティ・キャメロン」「ボーケイ・ウェッジ」「フットジョイ」という名前を聞いて「おっ」という声を上げる人がいたら、相当なゴルフ好きに違いない。タイトリストは、ゴルフボールの世界シェアでダントツの首位を長年保持するトップブランドで、そのゴルフクラブは内外の有名プロゴルファーが多数愛用していることで知られる。スコッティ・キャメロンやボーケイ・ウェッジなどのパターは、ゴルフ好きなら一度は使ってみたいクラブだろう。

アクシネット ジャパン インク（以下、アクシネット）は、これらのブランドを擁する世界的なゴルフ用品メーカー、米アクシネット カンパニーの日本法人である。

創業は1983年。当初から米本社のガイドラインに基づくシステム化を、IBMミッドレンジ機を中心に進めてきた。最近では2011年の東日本大震災を機に基幹系と情報系システムをすべて都内の外部データセンターに移設し、基幹システムについてはMaxava HAを導入して福岡にあるデータセンターのIBM iにバックアップする仕組みを構築した。また、16台のWindowsサーバーで構成さ

れる情報系は、「Arcserve Replication」を導入し、東京～福岡間でレプリケーションを行うシステムを構築した。「東京のシステムがいつ稼働停止になっても福岡で再開できる体制が整います」と説明するのは、インフォメーションシステム部の横尾広昭 課長である。

そしてこれと並行して進めてきたのが、今回レポートする新しい請求書処理システムの導入である。

発端は、請求書発行業務を担当する財務管理部クレジット課で1名の欠員が生じたことだった。同課では、毎10・15・25・末日に請求書の発行作業を行っているが、印刷した請求書の仕分けや封入・封緘、特定の取引先へのFAX送信をすべて手作業で行っていたので、毎10・15・25・末日は課員総出で夜9時頃まで作業が続くのが通例だった。そこへ1名の欠員である。クレジット課からは、欠員の穴を埋められ、作業を効率化できるシステムの導入を求める声がインフォメーションシステム部に寄せられていた。

ツールの連携による 手作業の自動化を計画

「最初に着目したのは手作業を減らす

ことでした。作業自体は、請求書を仕分けて封入・封緘し、さらにFAX番号を手打ちして送信するというシンプルなものでしたが、発行する請求書が年に1万8000通もあり、そのうち約8000枚をFAX送信する必要があったので、それぞれの作業に年間約130時間もかかっていました。これらを自動化して手作業を減らせば、業務の大幅な効率化が図れると考えました」（横尾氏）

採用したのは、インフォテックの帳票ソリューション「Create!Form」とNTTデータビジネスプレインズの電子帳票システム「Pandora-AX」、およびインターネットの自動FAXサーバー「まいと〜くFAX9 Pro」で構成されるシステムと、ピツニーボウズの封入・封緘機「DI425 FastPac Inserting System（以下、DI425）」である。横尾氏は、「IBM i上の現行システムを変更しないことを前提に製品を検討しました」と振り返る。

システムは、IBM i上のスプールデータをCSVまたは固定長テキスト形式でCreate!Formで作成した請求書フォームに取り込み、そのデータをPandora-AXへ渡して複合機で印刷（A4カット紙）、さらにPandora-AXの自動処理サーバー機能を使ってまいと〜く

FAX9 Proへデータを送り、自動的にFAX送信する仕組みである。また、A4カット紙に印刷した請求書にはCreate!Formが出力したOMR（光学式マーク読取装置）マークがあるので、DI425にセットすると自動で封入・封緘が行える。

ただし現在は、まいと〜くFAX9 Proの利用を開始していない。

これは、請求書発行から自動封入・封緘までのシステム構築を優先したからで、そのシステム構築を「フェーズ1」とし、自動FAX送信システムは「フェーズ2」として「近々にサービスインさせる予定」（横尾氏）という。

フェーズ1のシステム構築は、わずか3週間でカットオーバーしたが（2014年7月）、導入したDI425が最大5枚までしか封入・封緘できない機種であったため、その枚数を超える請求書への対応を行った。解決策は、請求書ごとのページ番号をCreate!Formが生成し、そのページ番号をPandora-AXが読み取って仕分けを行い、6枚以上の請求書は別処理するという内容である。5枚以内の請求書についてはDI425付属のOMRが帳票上に出力されたOMRマークを読み取り、1件の束を判断して封入・封緘を行う仕組みだ。

請求書フォームの作成は、横尾氏が担当した。「最初は、Create!Formの知識がなく戸惑いましたが、操作をあれこれ試すうちに慣れました。従来の請求書フォームをExcelに落とし、それをCreate!Formに取り込んで整形するやり方で進め、スピーディに開発できました。

罫線やQRコードなど多彩な表現が簡単にできる点を高く評価しています」と感想を述べる。

延べ10時間の作業が30分に短縮

■フェーズ1のサービスインにより、従来、月間で延べ10時間ほどかかっていた請求書発行から封入・封緘までの一連の作業が約30分で完了するようになった。フェーズ2の自動FAX送信がスタートすると、「月間で10時間ほどの作業が、数分で済む」という試算である。「今回のシステム導入によって、作業時間が大幅に短縮しただけでなく、請求書の誤封入や誤送信といったヒューマンエラーを防止でき、さらにシステム化によって得られた時間をより高度な作業にあてられるなどの効果を期待しています。すでにフェーズ1のシステムだけでも目覚ましい効果が出ています」と横尾氏。今後は、「今回のシステムを基盤として、他の部門で使用中の帳票システムやFAXシステムを見直し最適化していく計画」と抱負を語る。①

図表 帳票ツール「Create!Form」を導入したアクシネット ジャパン インクのシステム概要

